

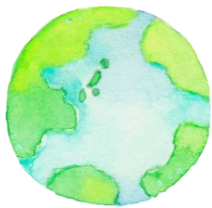
香川県議会議員

植田まきの県議会ニュース

無所属
市民派



発行: 〒761-8078 高松市仏生山町甲449-2 TEL&FAX 087-889-0747 E-mail maki-u@k5.dion.ne.jp



1人263万円、計 2,100 万円も！ 議員なら当たり前?? 批判殺到した南米派遣も可決



11月に予定されているブラジル県人移住110周年記念式典などに参加するためなどとして、知事に同行して県議会7人(当初8人。議決後1人辞退)を派遣する議案が香川県議会6月定例会に提案され、賛成多数で可決された。しかし、費用が高額すぎるなど批判が相次いでいる。

物価高騰の中、許されない

派遣される議員たちから出された海外派遣実施計画書では、右のような行程に加え、費用の見積りも示された。ビジネスクラスで飛び、1泊49,000円や66,000円の高級ホテルに宿泊する計画で、1人263万円、総額2,100万円超で、すべて県民が納めた税金で賄われる。物価高騰で生活が苦しい中、このような税金の使われ方に批判の声が上がり、市民団体からは、「大勢の議員で行く必要はなく、議長1人に見直しを」また、「議員派遣を中止し、若い世代の派遣事業拡大を」との陳情も県議会に提出された。

反対はたったの3議員



↑7月10日 ニュースパーク KSB

議会最終日、議員派遣についての議決に先立ち、植田と榎議員は反対討論に立ったが、賛成討論はなし。結果、賛成多数で可決、市民団体からの陳情も不採択となり、派遣が決まった。

月/日	行動予定
11/10	高松発 ロサンゼルス着発
11/11	サンパウロ着発 ●日系社会福祉センター等視察 アスンシオン着
11/12	●パラグアイ香川県人会創立50周年記念式典
11/13	●パラグアイ日本大使館表敬訪問 ●JICA パラグアイ事務所訪問 アスンシオン発 サンパウロ着
11/14	●ブラジル香川県人会会員の農場訪問 ●在サンパウロ領事館表敬訪問/ジャパンハウス・サンパウロ
11/15	●ブラジル香川県人移住110周年記念式典 サンパウロ発 リマ着
11/16	リマ発 ●南カリフォルニア香川県人会との懇談会 ●ジャパンハウス・ロサンゼルス等視察 ロサンゼルス着
11/17	●ハンテントン財団庭園セレモニー ●全米日系人博物館等視察
11/18	ロサンゼルス発
11/19	高松着

香川県議会の海外視察に関しては、議員派遣の旅費返還を求めた住民訴訟で、高松地裁は、「実質的には海外視察の名を借りた観光といえる」と結論づけ、20人に対して760万円の返還を命じ、県側は控訴せず、20人全員が返還した。選挙前に、あれだけ問題になったにもかかわらず、旅費263万円より少ない年収で生活している人や、コロナ禍さらに物価高騰で苦しんでいる人のことを考えず、このような税金の使い方を「議員なら当たり前」といった特権意識から賛成したとしたら問題だ。

会派	賛成した議員(敬称略)
自民党香川県政会	尾崎道広・宮本欣貞・ 山本直樹 ・五所野尾恭一・十河直・花崎光弘・大山一郎・ 新田耕造 ・谷久浩一・松原哲也・ 氏家孝志 ・ 白川和幸 ・松岡里佳・ 里石明敏 ・氏家寿士・城本宏・植條敬介・天雲千恵美・山根千佳・友枝俊陽
自民党議員会	鎌田守恭・平木享・山田正芳・齊藤勝範・松本公継
国民民主党議員会	山本悟史 ・鏡原慎一郎・三木由美子・金藤友香理・五味伸亮
立憲・市民派ネット	森裕行 ・米田晴彦 自民党新しい風 川池秀文
公明党議員会	都築信行・田井久留美
維新みんなの会	宮岡陽子(閉会後辞退) 香川せとうち next 小泉敦

本会議欠席・・・岡野朱里子(自民党香川県政会)

※赤字・・・派遣議員



会派	反対した議員(敬称略)
立憲・市民派ネット	富野和憲・植田真紀
日本共産党議員団	榎昭二

←7月11日 グッド！モーニング

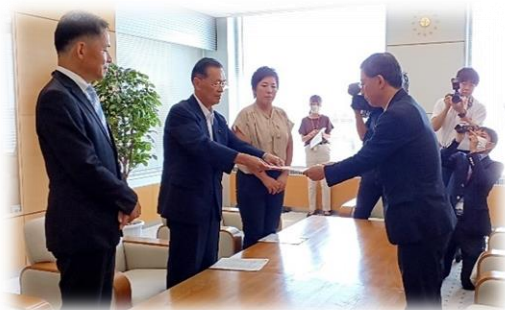
県民目線で内容の見直しを求める

議員派遣に関する Yahoo! ニュースに対し、高額な旅費、不透明な人選や人数、派遣の必要性などについて、議会最終日まで3,500件を超える批判的コメントが寄せられた。これを受けてか、議会閉会日の7月10日、わざわざ議長は、異例のコメントを発表。議長自ら、「費用など、今後、精査を行っていきたい」とコメントしていることから、植田を含め議員派遣に反対した議員3人は、知事と議長に対して、県民目線で日程の短縮やコストの「精査」を求める申し入れを行った。

しかし、新田議長は、マスコミ取材を拒否し、県民の批判を正面から受け止めようとせず、「3人の反対は少数派。賛成した36

人の意見こそが民意。」と発言。観光ガイド付きのゼイタク旅行を本気で「精査」する姿勢が感じられなかった。

←大山副知事に申し入れの様子(7/21)



若い世代の派遣事業拡大を

陳情の効果か？、今回の周年行事には、「ブラジル青少年派遣事業」(県の予算ではなく総務省予算)の一環で大学生も参加すること。しかし、大学生には費用の一部を自己負担させるのに、議員はロサンゼルス観光も含めて全額公費だなんて！！移住者や海外県人会との友好親善の強化のためにも、議員派遣の膨大な費用を若い世代の交流事業拡充に振り替えることの方がはるかに効果的な税金の使い方だ。

7月25日、大山副知事を表敬訪問したブラジル香川県人会の顧問、浜岡政晴さんも、「若い人を送っていただきたい。若い人の交流は、これからの卵ですから」と、より若い世代の交流促進を訴えている。

県議会棟前で抗議集会
ニュースパーク KSB→
(7/21)



かつて、原稿を読み合う本会議での質問を「学芸会」と揶揄した、元鳥取県知事の片山善博氏は、質問と答弁のあり方を早急に改めるべきだと述べている。香川県議会でも、議員があらかじめ執行部に質問の内容を知らせ、細かな原稿まで求められる。それに基づいて執行部の職員が答弁書を作成し、知事が議場で読み上げるといふスタイルだ。植田は、せめて、再質問で議論を深めようと試みたが、知事も教育長も同じ答弁を繰り返すだけ。再質問はほとんどの議員が行わないが、質問する全議員が行えば緊張感が生まれる。

地方議員の最も大事な役割は、多様な立場から議論し、議案を審議すること。さらには、税金の無駄遣いはないか、的外れな仕事をしていないかをチェックする行政監視だ。この観点からすると、6月定例会で問題になった県立アリーナの指定管理及び設計変更、そして議員派遣に対する審議や採決は、議員の役割を果たしているとは言い難い。

一般質問から

日本は国連の
権利委員会から勧告されるなど、障害のある子とない子が共に学ぶ、インクルーシブ教育の取り組みが遅れている。実際に学校現場で起きた問題から考えていきたい。

学校現場の不適切な指導

高松市内の公立小学校の通常学級に在籍していた障害のある児童の学校生活について学校と保護者とのやり取りに必要なことから動画が撮られていたが、その動画からは特別支援コーディネーターの教員による身体的・性的虐待が疑われる不適切な指導が多く見られた。さらには、学習指導要領で定められた個別の学習指導計画や教育支援計画の作成を2年間もしていなかった。

調査や指導内容は不明

当該教員は、わいせつの疑いで書類送検されたとのことだが、今年4月からも別の小学校に勤務している。植田は、任命権者である県教委として、市教委からの報告に基づき、どのような調査や指導がなされたのかを情報公開請求をして確認しようとしたが、「請求対象文書があるともないともいえないが、仮にあるとしても非公開文書である」とされた。これでは、当該教員及び県教委として、不適切な指導にどのように向き合い、改善しようとしているのか、まったく見えてこない。

専門性の向上が課題

このような不適切な指導に対する検証や具体的な再発防止策について教育長に質したが、「個別事案について申し上げることは差し控える」として、明快な回答は得られなかった。しかし、インクルーシブ教育の取り組みを進めていく上で、教職員の専門性向上のためにも、情報を共有し、組織として検証や指導内容について明らかにする必要がある。

植田まきの



本音のコラム

No. 9

県議として初めての6月定例会
県議会このままでは見捨てられる！

委員会質問、一般質問、さらには全国的に話題になっている高額な議員派遣問題など、県議として初めて臨んだ6月定例会は、怒涛のように過ぎた。しかし、選挙前に大きな問題になった海外視察や政務活動費問題の反省から議会改革に取り組みもうという動きは全くなかった。このままでは県民の信頼を得られないだけでなく、見捨てられるのではないかと危機感を感じる。

香川県立アリーナをめぐる問題続出!!

～指定管理者の指定と設計変更～



①指定管理者選定の情報隠し

Q. 植田: 現在、サンポートに建設中の県立アリーナについて、指定管理者評価委員会が候補者として「香川アリーナコンソーシアム」を選定し、今議会に議案が提出されているが、県からはこの団体が指定管理者として妥当なのかを判断する情報が一切提供されない。当然、団体の企画書や収支予算書などの情報提供がなされるべきだが、選定に係る情報公開をどう考えるのか？

A. 知事: 議案を審査する文教厚生委員会で、評価委員会の評価結果(A4 たったの1枚)を示しているの、それで判断いただきたい。

Q. 植田: 指定管理者制度に限ったことではないが、情報公開のあり方は、その自治体の姿勢がよく表れている。県の「指定管理者制度の導入等に関する基本方針」において、指定管理者の選定情報に係る情報公開基準を示す考えは？

A. 知事: 情報公開条例に基づいて対応しているので、個別の基準を示す考えはない。

ポイント

指定管理者は、中長期にわたって県の施設を県に代わって管理運営することになるから、その選定には公平性、透明性が強く求められる。新潟県のように「指定管理者制度の運用ガイドライン」で情報公開の姿勢を明確に示し、最低限でも高松市のように、団体の企画書や収支予算書などの資料を示し、検討した上で議決すべきだ。

②突然の設計変更？！

Q. 植田: 指定管理者の候補者である「香川アリーナコンソーシアム」から、風除室の設置と照明設計変更についての陳情書が議会に提出されている。これらが設計の段階で問題にならなかったとしたら設計ミスだ。設計の段階で議論されたのか？されたとしたら、どのような経緯があって現状のようなかたちになったのか？

A. 教育長: 実施設計は2021年にとりまとめた。その時点で、今回の風除室の設置の話はなかった。

Q. 植田: 教育長は、「候補事業者とはこれまでも風と照明の問題について意見交換を行ってきた。決められた建設費の上限190億円の範囲と2024年11月の工期で完成させることに全力を尽くす」との発言をしている。風除室の設置と照明設計変更は必要だと思っているのか？その場合、建設費の上限190億円と工期はどう守るのか？

A. 教育長: 県立アリーナをより良い施設とするための提案として、現在、専門的な見地から検討を進めている。施設の利便性の確保とコストコントロールの両立に努める。

ポイント

かなり建設が進んで、なんで今ごろ設計変更なのか？設計の段階で問題にならなかったのか？疑問だらけで、県のずさんな対応が明らかになった。県議会の特別委員会では、2018年6月から5年間に及んで協議をし、陳情で指摘されている2点についても議論がされてきた。にもかかわらず、あたかも初めて出てきた問題のような態度を取り続ける県及び指定管理者の対応に不信感がめぐえない。さらに、建設費も190億円を超えることになるのではないか？

委員会質問から

2023年度から計画スタート

有機農業 積極的に推進を!



2006年12月に有機農業推進法が成立し、少しずつ広がってきたが、日本の有機農業の存在はまだ小さい。そのような中、2021年5月、農水省は、農薬や化学肥料の大幅減、有機農業の面積を拡大することをめざす「みどりの食料システム戦略」を打ち出した。これまで農薬と化学肥料を使うことを当然としてきた日本農業を、持続可能な方向へと転換する政策の出発点といえる。

香川県では、「みどりの食料システム法」に基づき、県内全17市町共同で「香川県みどりの食料システム基本計画」(2023～25)を策定。県がリーダーシップを発揮し、地域ぐるみで有機農業に取り組む市町の取り組みを推進する県の推進体制づくりに力を入れるべきだ。



↑農水省が取り組みを始めたオーガニックビレッジ。有機農業に地域ぐるみで取り組む産地の創出を日本各地で広げる。(農水省 HP 参考に植田作成)

まっきーの

子育て日記 35



～高松市の放課後児童クラブ民間委託問題～

高松市が、来年度からすべての公設の「放課後児童クラブ」(学童保育)の運営を民間委託する方針を示し、5年間の委託費42億8,250万円を盛り込んだ一般会計補正予算が、6月定例会において賛成多数で可決されました。

しかし、「利用を希望しながら利用できない待機児童を解消するために民間委託する」とか、「民間委託すれば人材確保ができる」という市の説明にどれだけの人が納得しているのでしょうか？市は、結果ありきではなく、どれだけ時間をかけて関係者と話し合っただけの答えなのではないでしょうか？

物事を決めていく上で、プロセスは非常に重要です。3月の当初予算を審議する議会には、この民間委託の話題はまったく出ていなかったのに、改選後、突然出てきました。肝心の現場で働く支援員やお子さんを預けている保護者の意向は聞いていないという手法に大きな問題があります。一方、高松市が参考にしたという旭川市の民間委託までのスケジュールを見ると、途中アンケート調査も行い、1年以上かけて丁寧に実施しています。

放課後児童クラブは、保護者が働く家庭の小学生が放課後を過ごす大切な場所です。改めて、情報を共有し、とことん話し合っただけの重要性を感じます。



←夏休みの宿題に取り組み小学生の娘

マイナンバーをめぐる相次ぐトラブル…

マイナ保険証を強制しないで！



ポイントで釣ってカード普及

昨年10月13日、河野デジタル大臣は突然記者会見で、2024年秋に現在の健康保険証の廃止をめざすと表明。以来、事実上のマイナンバーカード義務化が広まったが、それを後押ししたのが、約2兆円の税金を投じた一人2万円のマイナポイント事業。でも、本当に便利な物ならポイントで釣る必要はないはずだ。

マイナ保険証で医療機関は困っている

植田のところにも医療関係者から電話があった。医療機関によっては、国の補助では導入費用がまかなえず、常時接続が必要になるためのセキュリティ対策、事前登録が必要なマイナ保険証利用による窓口トラブルやマイナカードの紛失など負担が大きく、このままでは廃業せざるを得ないとの声も出ている。

マイナカード取得は義務ではない

多くの人が「取得は義務では？」と勘違いしている。番号法では、「申請した希望者のみに発行」と規定しており、あくまでも任意である。河野デジタル大臣は、保険証廃止方針を変える考えがない(7/27現在)としているが、実質的なカード所持の強制に強く反対する。

植田まき ざっくばらん学習会

9月定例会前に県政や県議会のことについて、ざっくばらんにお話しましょう！いろいろなご相談にも対応します。(無料/予約不要)



★9月6日(水)19:00～

@西内町市民オンブズ香川事務所(西内町7-25)

★9月10日(日)13:30～

@植田まき事務所(仏生山町甲449-2/Pあり)

市民派改革ネット 議会報告会



9～10月に開催される定例市議会および県議会の報告を以下の日程で行います。ご都合のよい方にご参加ください。(無料/予約不要)

【夜の部】10月11日(水)18:30～

@瓦町 FLAG8階市民活動センター会議室

【昼の部】10月14日(土)13:30～

@高松市生涯学習センターまなびCAN 視聴覚室

活動費収支報告		2023年5月～7月
収入	報酬 (800,000×3)	2,400,000
	期末手当	574,200
	計	2,974,200
支出	源泉所得税	422,752
	市町県民税	89,500
	国民年金保険料	49,560
	国民健康保険	124,700
	みどり・香川 (30,000×3)	90,000
	まっきー通信発行費	194,480
	議員活動費	256,926
	計	1,227,918
	残高 (植田生活費・活動費へ)	1,746,282

植田まきプロフィール

- ★1975年、高松市仏生山町に生まれ育つ。韓国ドラマ、スポーツ大好き♪
- ★香川大学大学院(教育学修士)修了後、スポーツ指導員や中学校講師(保健体育)を勤める。
- ★2003年、議員インターンシップが転機となり、27歳で高松市議に。一貫して無所属・市民派のしがらみのない立場で議員活動を行う。
- ★2期満了で一旦、議事を離れ、立命館大学公共政策大学院で2年間学んだ後、再び市議に。通算4期務め、2023年5月から香川県議として活動。



※ひとりでも多くの方に、身近な政治に関心を持っていただきたく、朝の駅頭や昼・夕の街頭、またご自宅にポスティンといたかたちで手配りさせていただいています。お手元にタイムリーにお届けできない場合があります。ご了承ください。